(1) 地域の子どもセンターづくり
―子どもネットワークセンター天気村

はじめに

子どもの分野におけるNPOは、一九九八年の特定非営利活動促進法（NPO）法の成立にむけて中心的な役割を果たしてきた「子ども劇場全国センター」の動きに象徴されるように、NPO法人化によって全国的レベル・地域的レベルで、子どもの発達保障と社会参画支援、父母の子育て支援と地域の環境づくりにむけて新しい市民の学びと新しい公益活動のネットワークをつくりだしている。

こうした全国各地での子どもの分野におけるNPOは、二〇〇二年からの完全学校週五日制のスタートにむけて、一九九九年四月に文部省が打ち出した「全国子どもプラン」（緊急三ケ年戦略）における全国一〇〇〇か所の「子どもセンター」開設の方針と呼応しつつ、地域における子育て支援・子育て情報の発信拠点として重要な役割を担いつつある。インターネットのホームページにも、全国各地の子どもNPOから情報が発信されているが、ここでは地域・行政・自然を結んで最も包括的に問題を提起しているNPO法人「子どもネットワークセンター天気村」（滋賀県草津市）のとりくみに即して、同法人が発行した資料にもとづきNPOとしての新しい展開に目を向けてみることにしよう。

一　地域に根ざした自主的・共同的な活動として

一九九九年四月NPO法人を取得した「子どもネットワークセンター天気村」（代表理事・山田貴子氏、以下NPO法人「天気村」と略す）のとりくみは、〈子ども〉〈子育て〉にたいするサポートにとどまらず、〈ひとづくり〉〈まちづくり〉〈環境づくり〉を目指したスタンスの大きなとりくみを展開しているが、そのスタートまでには一〇年余にわたる自主的・共同的活動の蓄積がある。

一九八七年に、山田貴子さんを中心に開始された自主的な事業「天気村」は、琵琶湖湖南の草津市近郊にその拠点がある。山田さんは、すぐ近くに田園風景のひろがる草津川沿いの閑静な住宅地の中に、子どもからお年寄りまで、障害者も含めた地域の人々誰もが気軽に集える〈場所づくり〉に着手し、この活動がスタートした。人々の"食"のニーズに応えながら楽しくコミュニケーションのできる喫茶店「楽土」では、各種のティーと特製のカレーライスやピラフが食べられ、そして蔵元直送の日本酒やカクテルが味わえる。"表現・文化・芸術"のニーズに応えるギャラリーとレッスン室は、ダンスや音楽や演劇の練習や、版画や陶器の展示、ミニコンサート等に利用できる。そしてさらに、"宿泊"のニーズに応え自炊ができる合宿・宿泊施設が低料金で利用できるようになっている。

地域の人々が気楽に自由に交流できる溜まり場・居場所が用意されたことによって、そうしたとりくみに賛同し関心をよせる多くのスタッフが集い、子育て真っ最中の親と子のための「幼児教室（こんぺいとう）」が組織された。さらに、さまざまな野外活動の体験や、障害児と健常児の交流、小・中・高校生のボランティア育成、学び直しの場としての「フリースクール（一歩塾）」などへとひろがり、子育て支援のネットワークが形成された。

一九九三年には、名称が「ネットワーク天気村」と改められ、それまでの地域に根ざしたとりくみの蓄積をふまえて、さらに新しい人間関係づくりを模索する人々への発信基地になっていく。多様なワークショップの企画（ダンス、バントマイム、民族楽器や和太鼓のコンサート、気功や指圧、自然療法や自然採食、サイコセラピーなど）とともに、国際交流事業（イギリスのフリースクールとの交流や海外劇団の公演など）も着手された。このように、NPO法人としての出発に先立って、任意団体としてのとりくみではあるが、地域に根ざした自主的・共同的な活動として、〈ひとづくり〉〈まちづくり〉〈環境づくり〉をめざす新しい市民の学びあい育ちあいの場がつくられてきたのである。

二　NPO法人「天気村」の発足と多面的な活動

以上の実績を踏まえて、一九九九年四月に「NPO法人

天気村」が発足した。その定款には、「この法人には、地域社会全体の子ども及び大人に対して、様々な課題を地域全体で受けとめ、子育て支援をはじめとする野外文化体験活動、ボランティア活動などの実践活動を通して、社会の後継者を育むひとづくり、地域の文化性を生かしたまちづくり、並びに、環境保全の意識向上を推進するとともに、地域での様々な活動の情報を提供し、ネットワークすることにより、交流の活発化を図る事業を行い、社会に寄与することを目的とする」とある。

こうした目的の実現に向けて取り組まれた、一九九九年度から二〇〇〇年度にかけての具体的な活動内容について、詳しく見てみよう。

(1)子どもへのサポート

まず第一は、直接子どもたちを対象にした取り組みであるが、野外活動や冒険遊びなどを中心にしたワークショップ型の体験活動を準備するプロジェクトがつくられている。

・野外体験こんぺいとう（二歳半から五歳児対象、毎週月・水・金曜、年間約一一〇日、入会金は第一子のみ二〇〇〇円、週一回参加の場合で月額八〇〇〇円、教材費・おやつ代・傷害保険料込み）……野外体験「こんぺいとう」のとりくみの実際は次のようなものである。草津市及び近辺の守山市、栗東町、野洲町などの公園や冒険遊び場、四季折々の実りを提供してくれる農家や、里山の自然をフィールドにして、朝九時半から午後一時半までスタッフといっしょに、野外での遊びや冒険、伝承遊び、農の体験を楽しむ。山田さんたちスタッフは、大自然のなかで子どもたちに対して「仕組まない教育の場」を提供することが大切だと言う。子ども自身が、自ら試行錯誤しつつ学んでいくために、子どもたちの心に寄り添いながら、遊びというものの「自然な教育力」によって「生きる力・自ら考える力」が育つと考えている。

・野外体験なっとう（四歳児以上、毎週水曜一五時～一七時、年間約四〇日、チケット制一回一〇〇〇円、活動費・傷害保険料込み）……冒険遊びや、野外でいろいろなスポーツを楽しめるきっかけをつくり、健常児と養護学校の生徒や幼児の障害児に対して共生教育の場を提供することで、遊びを通した自然な関わりによる心のバリアフリーを目指すとりくみ。

・こんぺいとうクラブ（毎月随時、年間約三〇日、参加費は二五〇〇円から、宿泊六〇〇〇円）……自然体験・農体験・里山活動などの体験をしたり、地域の伝統行事やイベントへの参加の機会を提供している。

・こんぺいとう親子バス遠足（年間三～四回、参加費一〇〇〇円）

・こんぺいとう&なっとう大運動会（一一月）

・こんぺいとう&なっとうクリスマス・餅つき大会（一二月）

・一歩スポーツクラブ（小一～小六対象、毎週金曜日、一六時半～一七時半、月八〇〇円）……近くの小学校の体育館を使って異年齢の子どもたちが、多様なスポーツに親しみ、子どもたちに可能なボランティア活動の場を提供している。年二回から三回の合宿、地域のふれあいマラソンへの参加が恒例となっている。

・ボランティアグループ一歩（中・高校生対象、月一回のミーティングと子どもネットワークセンター「天気村」の諸事業へのボランティアとしての参加。福祉・環境・障害児との交流などを企画・運営するとともに、行政のボランティア事業への参加。

(2)家庭の子育てへのサポート

第二に、地域の親と子を様々な方向からサポートし、子育ての不安や悩みに応えつつ、きめ細かな子育て支援をコーディネートしていく活動である。

・こんぺいとうハウス（法人併設児童館、月曜～金曜、九時半～四時、祝日と年末年始は休館）……ファミリーサポート事業のメインプログラム、取り組みの拠点として子どもからお年よりまで交流できる出会いの広場。子育て支援ネットワークの場として、子どもと子育てに関する情報提供やサークル活動支援の拠点。

・ベビーブレイグループ天気村（毎週月・水・金曜日、一〇時～一二時、一グループ八人～一〇人、参加費一回につき一〇〇円）……地域の中での母子の孤立化を防ぐために、育児不安やしつけの悩みなどを、話し合ったり、親子で一緒に遊びながら子育ての見通しをつかみ合う場。

・保育ルーム（九時半～一五時、時間単位、〇歳～就学前、一時間七〇〇円）……保育サポーターによる緊急時の保育のサポート。天気村の様々な事業にも参加できる。

・保育サポーターネットワーク「のびのび」……保育にかかわるサポーターの交流と研修により安心したサポーター体制の確立をめざす。

・天気村パパママの会「マーブルチョコの会」……子どもネットワークセンター「天気村」の諸事業にボランティア、サポーターとして参加する父母の会。

(3)地域住民全体を対象とした学習とイベント支援

(1)ワークショップ・学習プログラムの企画と支援

第三は、地域の人々の学習に関するニーズに応える内容づくりと参加型学習への学習方法の転換が模索されている。社会福祉協議会や自治体の社会教育課が主催する講座の内容づくりへの協力、講師の派遣など、従来の地域福祉や社会教育活動への参加と支援が積極的に行われている。

・草津中学校家庭教育学級開校式「出会いのワークショップ」
・淡海ネットワークセンター市民交流会フェスティバルワークショップ
・淡海ネットワークセンター「土と親しむ体験教育」
・FM滋賀「湖国二一世紀事業」ラジオトーク出演
・里山プレイレンジャー養成講座（栗東町ボランティアセンター協賛）
・淡海少子化フォーラム（滋賀県内七か所）など。

(2)イベントの企画と運営

さらに、子どもからお年寄りまで、地域全体を対象としたボランティアプログラムやイベントの企画と運営にも取り組み、ひろく地域住民への働きかけを行っている。

・エコライフフェスティバル（県エコライフ推進課の協賛）
・ふれあい健康まつり（生協診療所）
・大津ふれあいマラソンボランティアコーディネート
・中・高校生のボランティアスクール「はじめの一歩」（草津市・栗東町との協働）
・天気村まつりなど。

(4)委託・補助金・助成金事業の展開

第四に、NPOとして県や市町村に積極的に働きかけて事業委託を受けると共に、各種事業団からの補助金や助成金を得て、公益活動の新たな展開が図られている。

・栗東町サマーホリデーサービス事業指導員委託
・明日の少子高齢化社会を語る（滋賀県児童家庭課助成金事業）
・二〇〇〇年おうみ子ども未来会議（滋賀県、生涯学習研究所SOUPとの共催）

・子育て応援隊募集事業（社会福祉・医療事業団の助成事業）
・里山プレイレンジャー（日本財団助成事業）
・老後を豊かにするボランティア活動資金（はあと記念財団の助成事業）など。

三　NPO法人「天気村」が提起する課題

〈ひとづくり〉〈まちづくり〉〈環境づくり〉をめざしたNPO法人「天気村」の取り組みの特徴は、第一にその基本コンセプトとして、人間と自然との共生、生態系のバランスのとれた回復のなかで、子どもの成長と子育ての社会的システムを再構成し、同時に地域コミュニティの構築と地域環境の保全を進めようという方向が見据えられていることである。

第二に、旧来の「教育」や「学校」という概念にとらわれずに、新しい学びの内容と方法が柔軟に模索されていることである。地域環境体が子どもの成長のフィールドという視点に立って、大人が「仕組まない遊び」を継続していくなかで、子ども自身が五感を使って感じ、考えながら、自然とのつきあい方や世代を超えた人間関係を学び身につけていくという、新しい学びの方法を提起している。また「子ども」は大人や青年によって、守られ、教えられ、指導される対象であるという旧来の子ども観ではなく、子どもも青年も大人も同じ市民として遊び、感じ、学び、楽しみながら地域づくりに参加し、地域の中に新しい人間関係をつくりだしていくパートナーとしてとらえられている。

そして第三に、従来の行政主導の社会教育活動にはない、楽しさと自由な発想によるとりくみの創造が追求されていることにも注目して良い。その一例として、自分たちの住む地域を探検し、遊びながら、暮らしやすいまちづくりを考える「くさつあそび隊」のアイデアは興味深い。年間登録費（五〇〇円）を払いこの取り組みに参加した人に、年間を通じて行われる活動への参加が認められた会員証と同時に、エココイン（疑似通貨）五個と探検手帳や指令書が手渡される。エココインを使って遊び広場の木工細工やチャンバラ大会に参加したり、牛乳パックやアルミ缶の回収や広場のゴミ拾いに参加してエココインを稼いだりしながら、次の活動につないでいく。この取り組みを環境庁のこどもエコクラブに呼びかけ、地域のエコ活動に参加すると1コイン渡される流通システムを導入し、エコクラブの活動が環境だけでなく、福祉・教育の分野にもコインを流通

させることで、参加体験の場の提供をはかっている。また文部省の「子どもセンター」事業の情報誌にも「くさつあそび隊」の活動の情報を提供し、エココインマークを見て子どもたちが自発的に参加するしかけを工夫している。今後、公民館活動に対してもエココインマークの掲載を促進し、環境課・教育委員会・社会福祉協議会・児童課という旧来の縦割り行政を横につないで、子どもたちの発達環境づくりを総合化していくことが目指される。

NPO法人「天気村」の取り組みは、発足から二年目に入ったところであるが、法人格を得たことによって、従来の任意団体としての活動よりも、活動の幅が一段と拡大し社会的比重も増している。特に、行政とタイアップしたイベントやワークショップや講座を通じて、それらの内容と運営をより住民に近づけ参加しやすいものにするとともに、行政からの委託や助成事業を市民主導の公益活動として発展させていく可能性が大きく開かれている。今後のさらなる発展に向けて、取り組みの担い手の育成とともに、様々な活動や事業の記録化と理論化を通じて、活動と事業を支える理念の深化が求められている。

（増山均）